

## 「戦後の日本と世界」

日 時 令和4年7月5日 ～ 7月15日

学年・組 第3学年A組（男子 10名 女子 10名 計20名）

たちばなB組（男子 1名）

場 所 3年A組 教室

## 単元観

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編（平成30年、以下「29年解説」とする。）では、社会科の目標は、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目標としている。平和で民主的な国家及び社会を形成するためには、現代社会で生じる諸課題について歴史的な見方・考え方を働かせて考察する必要がある。本単元は、中学校学習指導要領社会歴史的分野 C近現代の日本と世界(2)現代の日本と世界(ア)日本の民主化と冷戦下の国際社会 を基に設定したものである。本単元のねらいは、「冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解すること（「29年解説」）」である。本単元を通して、戦後の日本の建設から今日の平和をどのように維持するかという単元を貫く問いに対する概念的知識の理解を図る。

## 生徒観

所属校の実態として、令和4年度キャリア形成に関するアンケートの「学ぶことや働くことの意義を考えたり、今学んでいることと将来のつながりを考えている」という項目における否定的回答は27.5%であり、全体の割合として少ないとはいえない。この結果から、生徒自身が現在や未来の生活と学習内容とのつながりを、十分に実感できていないという課題が考えられる。このアンケート結果における課題を歴史的分野の学習に照らした際に、生徒が学習した歴史的事象と生徒自身が生きる現代的事象との関連を十分に理解できていないことが考えられる。

## 指導観

生徒観の課題を踏まえ、本単元の目標を「第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたこと。それらに関連する現代の課題について、歴史的な見方・考え方を働かせて自分たちの生活とつなげ考察する力を身に付ける」とし、これを踏まえて、単元を貫く問いを「今後、日本の平和を維持していくためには、どうすればよいだろうか?」とした。単元を貫く問いの考察に当たっては、生徒に戦後の日本と世界の学習内容に関する知識を、現代の平和に関する課題と関連させて構造的に理解させていくことが必要である。そこで、学習内容と生徒自身の生活とのつながりを実感させながら学習課題を追究させる工夫を試みる。

その工夫は、以下の2点である。1点目は、「生徒自身の問い」を用いることである。「生徒自身の問い」とは、生徒が学習内容の中から浮かんだ素朴な疑問や、学習内容とつながる生徒の身近な生活の中から発する疑問である。この「生徒自身の問い」が、どの段階（事実に知識、記述的知識、概念的知識、価値的知識（表1））の知識につながるかを整理し、学習課題の解決に向けた高次の知識を獲得させる。2点目は、テキストマイニング（図1）を用いることである。この工夫によって、複数の事実に知識をつなぎ、それらの背景や原因、結果、影響などの関係性を考察させることで記述的知識を獲得させる。

以上の2点の工夫によって獲得させた記述的知識を基に、教師から単元を貫く問いに関する発問をすることで、概念的知識や価値的知識の獲得を図る（図2）。このように、生徒が自らの疑問を解決する過程で、関係する歴史的事象をつなぎながら段階的に知識の獲得を図る。

表1 本単元における知識の種類と各知識の説明

知識の種類	各知識の説明
価値的知識	「我々はどうすべきか」という価値判断や意思決定についての知識
概念的知識	「なぜ」という諸事象間の関係についての知識
記述的知識	「どのように」などの個別的事象の総合、概括についての知識
事実的知識	「いつ、どこ、誰、何」などの個別的事象についての知識

※ 原田智仁 (2018) : 『中学校学習指導要領 社会科の授業づくり』 明治図書を基に筆者作成

図1 テキストマイニングの説明と具体例

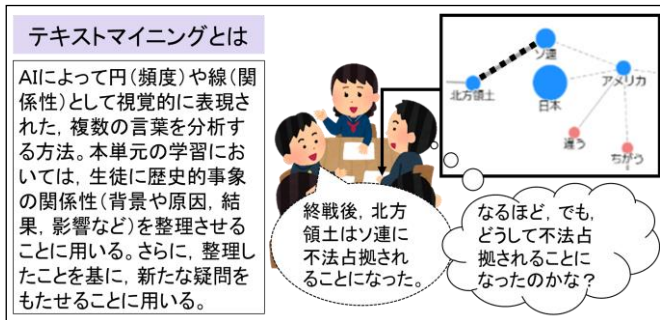
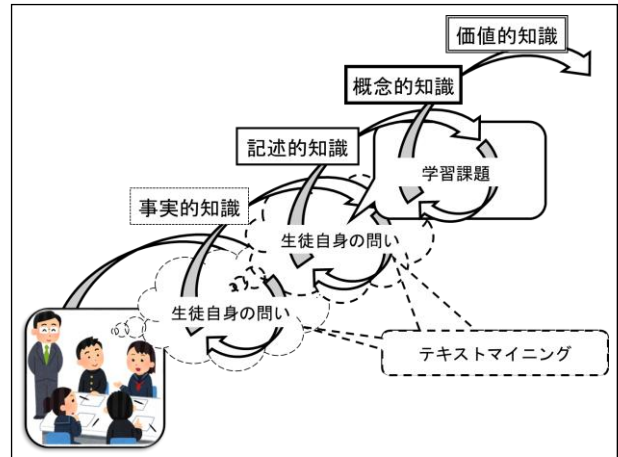


図2 「生徒自身の問い」を基点とした学習展開



## 単元の目標と評価規準

### 単元の目標

第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたこと。それらに関連する現代の課題について、歴史的な見方・考え方を働かせて自分たちの生活とつなげ考察する力を身に付ける。

### 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①冷戦，我が国の民主化と再建の過程，国際社会への復帰などを基に，第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。</p> <p>②高度経済成長，国際社会との関わり，冷戦による緊張と緩和などを基に，我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し，国際社会において我が国の役割が大きくなっていることを理解している。</p>	<p>①諸改革の展開と国際社会の変化，政治の展開と国民生活の変化などに着目して，日本の民主化と冷戦下の国際社会，日本の経済発展とグローバル化する世界について，現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。</p> <p>②現代の日本と世界を大観し，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現している。</p> <p>③歴史と私たちとのつながり，現在と未来の日本や世界の在り方について，課題意識をもって多面的・多角的に考察し，構想し，表現している。</p>	<p>①現代の日本と世界について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。</p>

## 本単元の知識の構造化（教科書の記述）

問い

知識

今後、日本の平和を維持していくためには、どうすればよいだろうか？

平和外交の推進、開発途上国への援助などの国際社会での日本の役割を果たしていくこと。

これまで、日本の平和はどのように維持されてきたのだろうか？

GHQの草案に基づく日本国憲法が制定され、戦力と交戦権を不保持とした。その後、冷戦構造における朝鮮戦争をきっかけに警察予備隊を組織し、自衛隊へと改編されていった。また、日米安全保障条約によって沖縄に米軍基地を残すことで、防衛費を抑えながら経済発展に注力した。そして、ソ連との関係修復によって、国際社会の平和維持を目的とする組織である国際連合への復帰を果たした。さらに、冷戦の緊張緩和にとともに、社会主義陣営の国々との関係を改善させた。

戦後の日本は、国際社会の中でどのように再建されていったのだろうか？

戦後の日本は、GHQの指導のもとに非軍事化と民主化を進め、冷戦の拡大とともに資本主義陣営の国としてアメリカとの協力関係を強めることで国際社会への復帰を果たした。その一方で、社会主義陣営の国々との国際関係修復は遅れていた。しかし、キューバ危機やベトナム戦争後の冷戦の緊張緩和とともに、社会主義国との関係修復を進め、日本はさらなる経済成長を遂げ、世界第二位の経済大国となり、国際的な地位を高めた。

戦後の日本や世界の国際関係は、どのように変化していったのだろうか？

国際連合が創設されたが、冷戦が始まった。冷戦下では、様々な国や地域の独立をめぐる紛争に、米ソの支援が絡み、それらは長期化した。日本は、西側陣営の一員として独立を回復し、ソ連との国交回復による国際連合への復帰を果たした。その後、緊張緩和が進むと、東側陣営の国々とも国交を正常化した。

戦後の日本や世界の政治は、どのように変化していったのだろうか？

GHQ指導のもとに日本の非軍事化と民主化が進められる中で、日本国憲法が制定された。また、日本はアメリカとの関係を強め、自衛隊を創設し、日米安全保障条約を結ぶことで沖縄に米軍基地を残し、国防を強化した。その後、日本は非核三原則を掲げるとともに、沖縄の日本復帰を果たした。

戦後の日本や世界の文化は、どのように変化していったのだろうか？

冷戦下での緊張状態が各国に報じられ、キューバ危機による核戦争の危機や、ベトナム戦争による反戦運動の高まりが緊張緩和へとつながった。日本では、戦後の民主化が進み、高度経済成長の中で、都市や交通等が発達し、国民生活も変化した。また、オリンピック・パラリンピックも開催された。

戦後の日本や世界の経済は、どのように変化していったのだろうか？

各国が米ソによる援助を受けて経済成長を目指した。日本は、朝鮮戦争による特需景気の影響やアメリカの支援を受けながら重化学工業を発展させ、GNPで世界第2位の経済大国となった。その後、第一次石油危機による戦後初の経済成長率マイナスや、アメリカとの貿易摩擦が発生した。

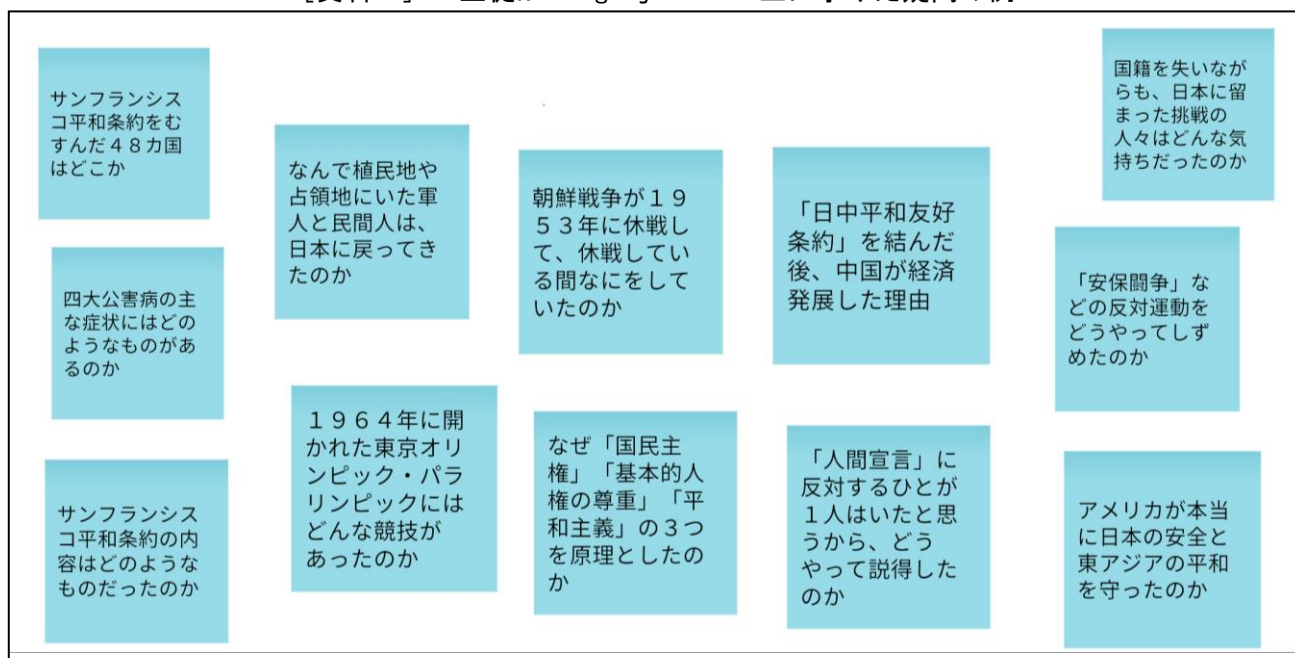
## 指導と評価の計画

### 指導計画（全 11 時間）

時数	学習内容	評価の観点			学習活動	評価規準 (評価方法)
		知	思	主		
1	学習内容へのイメージと教科書の内容を基に、学習内容に関する疑問をもつ。			●	教科書を読んで、疑問に感じたことを GoogleJamboard に 10 個以上挙げ、全体で共有する。 [資料 1]	学習内容に対する疑問を挙げるができるている。  【主-①】 (GoogleJamboard)
2	生徒それぞれが選んだ事実に知識獲得につながる「いつ、どこ、誰、何」などの疑問について調べ、答えをまとめる。	○			事実に知識の獲得につながる問いの一覧から、各自が調べたい疑問を 1 つ選び、答えを Google スライドにまとめる。 [資料 2]	事実に知識の獲得につながる問いを調べ、答えをまとめることができるている。  【知-①】 (Google スライド)
3	本単元における事実に知識の関係性について整理する。	●			調べた内容を一覧にした資料を活用し、事実に知識の関係性について、テキストマイニング(図 2)を通して整理する。 [資料 3]	テキストマイニングを通して、事実に知識の関係性について理解できている。  【知-①②】 (ワークシート)
4	本単元における事実に知識の関係性を理解し、記述的知識の獲得につながる「どのように」などの疑問をもつ。  (本時)	●	●		各班のテキストマイニングの結果について全体で共有し、記述的知識につながる新たな疑問を挙げる。	事実に知識の関係性への理解を基に、記述的知識の獲得につながる新たな疑問を挙げるができるている。  【知-①】 【思-①】 (ワークシート)
5	生徒それぞれが選んだ記述的知識の獲得につながる「どのように」などの疑問について調べ、答えをまとめる。	○			記述的知識の獲得につながる問いの一覧から、各自が調べたい疑問を 1 つ選び、答えを Google スライドにまとめる。	記述的知識の獲得につながる問いを調べ、答えをまとめることができるている。  【知-①】 (Google スライド)
6 ・ 7	これまで獲得してきた記述的知識をもとに、複数の視点を踏まえて、戦後の日本再建の過程について説明する。  【学習課題】 戦後の日本は、国際社会の中でどのように再建されていったのだろうか？		●		生徒の調べた内容を一覧資料とし、記述的知識を、国際関係、政治、文化、経済の視点で分類する。その後、四つの視点で分類した知識を活用しながら学習課題を解決する。	戦後の日本再建の過程について、国際関係、政治、文化、経済の視点を踏まえ、説明することができるている。  【思-①】 (ワークシート)
8	これまで獲得してきた記述的知識をもとに、これまでの日本の平和維持の過程について説明する。		●		前時までに整理した記述的知識をもとに、戦後日本の安全保障の維持や向上に関する	これまでの日本の平和維持の過程について、前時までに獲得してきた知識を用いて説明でき

					る, 様々な要因を関連させながら学習課題を解決する。	ている。 【思-②】 (ワークシート)
	【学習課題】 これまで, 日本の平和はどのように維持されてきたのだろうか?					
9 ・ 10	これまで獲得してきた記述的知識をもとに, 今後の日本の平和維持の在り方について考え, 説明させる。 【学習課題】 今後, 日本の平和を維持していくためには, どうすればよいだろうか?		●		学習課題についての各自のレポートをもとに意見交流する。また, 意見交流を踏まえて, 日本の安全保障を維持するために必要な要素について国際関係, 政治, 文化, 経済の視点で考えることを通して, 学習課題を解決する。	今後の日本の平和維持の在り方について, 国際関係, 政治, 文化, 経済の視点を踏まえ, 説明できている。 【思-③】 (ワークシート)
11	これまで獲得してきた知識を総合的に活用し, 今後の国際社会の安全保障に必要な要素について考え, 議論する。 【学習課題】 国際社会の平和を維持するためには, どうすればよいだろうか?		○	○	これまで獲得してきた, 本單元における知識と現在の世界情勢を関連付けながら, 学習課題について議論することを通して, 日本や世界の在り方について, 当事者の立場として考える。	今後の国際社会の安全保障に必要な要素について, 本單元における知識と現在の世界情勢を関連付けながら説明できている。 【思-③】 【主-①】 (発言・ワークシート)

【資料1】 生徒が GoogleJamboard 上に挙げた疑問の例



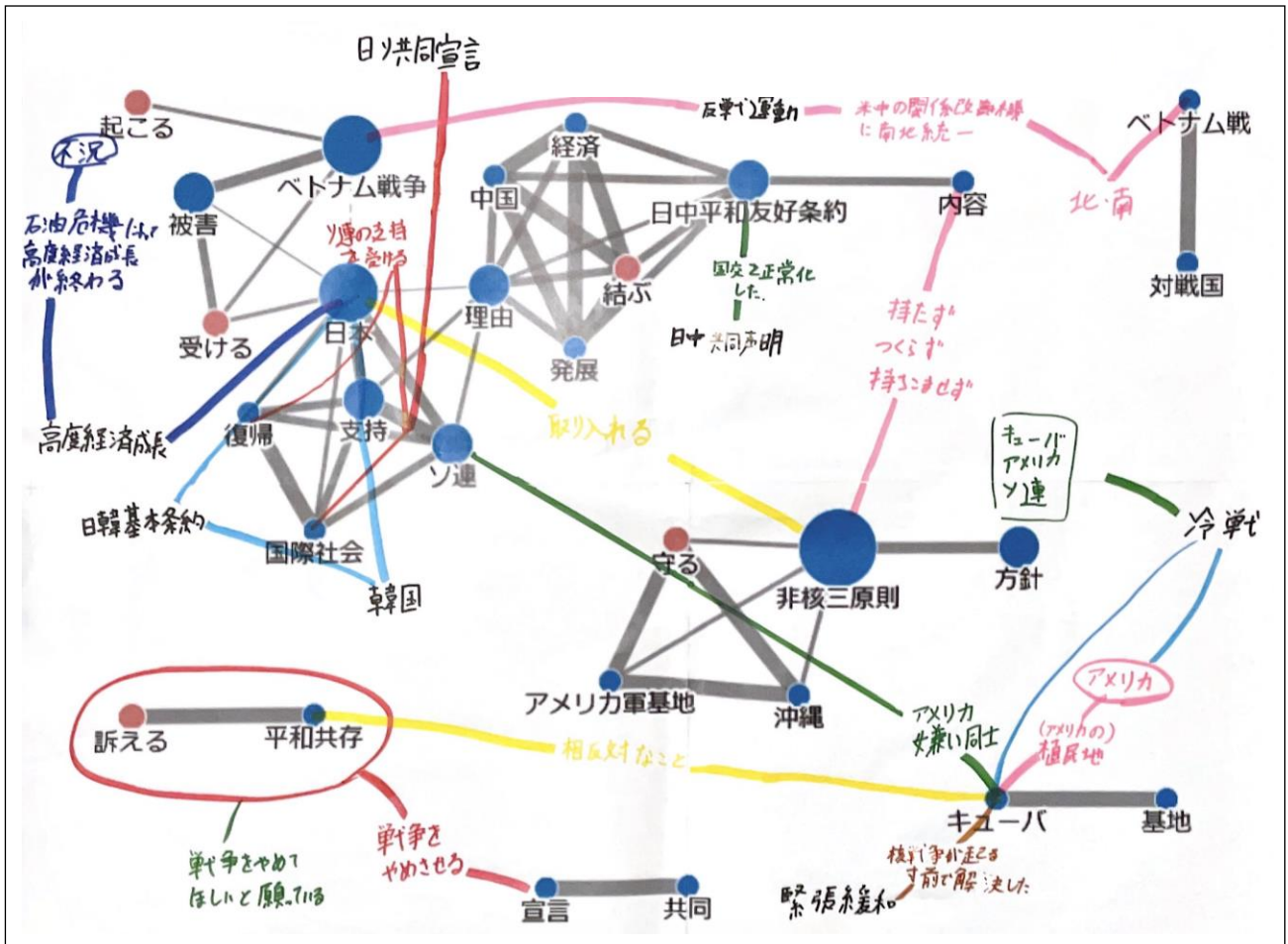
[資料2] 生徒が事実的知識の獲得につながる疑問に対して、Google スライドを用いてまとめた例

## 「GHQとは？また、その取組とは？」

GHQ ⇒ 連合軍最高司令官総司令部

- ・ 第二次世界対戦後、連合軍が日本占領中に設置した総司令部
  - ・ 1945年～1952年の7年間占領されていた。
- ☆日本が再び連合国の脅威にならないよう徹底的に非軍事化すること。
  - ☆軍隊を解散させ、戦犯と見なした指導者を裁判し、戦争中に重要だった人々を公職から追放した。

[資料3] 班ごとに教科書2ページ分を分担して行ったテキストマイニングで、整理した事実的知識どうしの関係性の例



## 本時の学習（4/11時間）

### （1）本時の目標

- ・ 個別の歴史的事象どうしの関係性を整理し、それらの関係を理解することができる。
- ・ 整理し、理解した知識から、日本との関わりを視点とした新たな疑問をもつことができる。

### （2）本時の評価規準

- ・ 個別の歴史的事象どうしの関係性を整理し、理解することができる。
- ・ 整理し、理解した知識から、日本との関わりを視点とした新たな疑問をもつことができる。

### （3）学習展開

学習活動	予想される生徒の反応	◇指導上の留意事項 ★評価規準（評価方法）										
<b>1 導入（5分）</b>												
<p>○前時の復習として、5つの班が教科書2ページ分ずつを担当してテキストマイニングを行った資料を再度確認する。</p> <table border="1" style="width: 100%; margin: 10px 0;"> <tr><td style="width: 10%;">A班</td><td>「南北問題」</td></tr> <tr><td>B班</td><td>「キューバ危機」</td></tr> <tr><td>C班</td><td>「東京オリンピック」</td></tr> <tr><td>D班</td><td>「石油危機」</td></tr> <tr><td>E班</td><td>「ベトナム戦争」</td></tr> </table> <p>○本時のめあてを確認する。</p>	A班	「南北問題」	B班	「キューバ危機」	C班	「東京オリンピック」	D班	「石油危機」	E班	「ベトナム戦争」	<p>例) A班「南北問題」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「南北問題」と「アフリカ」の関係は「北半球に先進工業国が多いため、アフリカの国々などとの経済格差が問題となっている」ことだったね。</li> </ul>	<p>◇展開1に向けて、前時のテキストマイニングで整理した「いつ、どこ、誰、何」などの事実的知識どうしの背景や原因、結果、影響などの関係性について、想起させる。</p>
A班	「南北問題」											
B班	「キューバ危機」											
C班	「東京オリンピック」											
D班	「石油危機」											
E班	「ベトナム戦争」											
めあて：テキストマイニングで整理した知識から、新たな疑問をもつことができる。												
<b>2 展開1（30分）</b>												
<p>○各班が担当したテキストマイニング資料を用いて、資料上の語句の関係性について班ごとに説明し、質疑応答を行う。</p>	<p>例) B班「キューバ危機」の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「キューバ」と「緊張緩和」の関係性は「キューバ危機が解消されたことで、冷戦の緊張緩和が進んだ」ことです。【質疑応答後のB班の気付き】</li> <li>・ キューバ危機の解消で緊張緩和が進んだことは理解できたけど、そもそもなぜソ連は、キューバに基地をつくらうとしたのだろう？</li> </ul>	<p>◇説明の内容で訂正したり、補足したりすべき点がある場合、各班の説明後に行う。</p> <p>★個別の歴史的事象どうしの関係性を整理し、それらの関係を理解することができる。</p> <p>(説明・テキストマイニング資料)</p>										

### 3 展開2 (10分)

各班が調べた個別の歴史的事象を統合するため次のような発問をする。

「各班が調べた歴史的事象と日本との関わりについて疑問に思うことを挙げてみよう。」

○展開1で整理した知識を基に、日本との関わりという視点で新たな疑問をもつ。

例) B班「キューバ危機」の新たな疑問

- ・キューバ危機で緊張緩和が進んだことは、日本にどのように影響したのだろうか？

例) C班「東京オリンピック」の新たな疑問

- ・オリンピックが日本経済にどのような影響を与えたのだろうか？

例) D班「石油危機」の新たな疑問

- ・第四次中東戦争による日本への影響は、石油危機以外にはどのようなものがあるのか？

例) E班「ベトナム戦争」の新たな疑問

- ・ベトナム戦争に対して世界的に反戦運動が強まったが、日本人々は反戦運動を行わなかったのだろうか？もし、行っていたとしたら、どのような運動をしていたのか？

例) A班「南北問題」

疑問が設定できない場合

- ・どうやって、理解したことから新しい疑問をもてばよいのか分からない。

◇テキストマイニングを通して得た事实的知識どうしの関係性への理解をもとに、日本との関わりを視点として新たな疑問をもたせる。

★整理し、理解した知識から、日本との関わりを視点とした新たな疑問をもつことができる。

(ワークシート)

本時で整理した知識を基に、日本との関わりを視点とした疑問の具体例を示す。

- ・「南北問題」と「アフリカ」の関係は「北半球に先進工業国が多いため、アフリカの国々などとの経済格差が問題となっている」

⇒日本は貧困で苦しむ発展途上に支援をしていたのか？もし、していたとしたら、どのような支援をしていたのか？

### 4 まとめ (5分)

各班が調べた個別の歴史的事象が、「日本にどのように影響したか、またはどのような変化を与えたのか」、次の時間に調べる。

・次時の流れについて確認する。

◇次時となる第5時は、第6・7時の学習課題の解決に必要なとなる記述的知識を獲得させるために、本時に挙がっ



		た新たな疑問と第1時の授業で挙げた記述的知識の獲得につながる疑問をもとに授業を展開することを伝える。
--	--	--